

令和5年度 コミュニティ市民会議の取組状況

コミュニティ組織名	市民会議委員(人数)	No.	開催状況	課題・テーマ	内容・結果	今年度の市民会議の総括	会議運営上の課題	次年度以降の取組予定
一中地区地域のふれあいを広める会【H23.12.1設置】	自治会長 専門部会長等 (16人)	★	継続事業 (毎月第1, 第3月 曜日開催)	・高齢者の居場所づくり	・高齢者サロン「楽々亭」の運営(21回) ・健康体操 ・レクリエーション(輪投げ等) ・食事(カレーライス)の持ち帰り ※延べ509人, 一回平均24人の利用			
		★	継続事業 (毎週土曜日実施)	・青少年非行防止・防犯ネットワークの構築	・毎週土曜日の夕方, コミセンの公用車を用い, 防犯パトロール隊が市内において巡回パトロールを実施 ※延べ 37回122名の参加			
二中学区地域の輪をつくる会【H24.4.21設置】	コミ会長 副会長 学校運営委員 自治会代表 指導課 青少年課 事務局 (15人)	1	令和5年8月24日	・コミュニティ・スクールについて	・子供を地域で支える会とともに研修会・講演会を行った。 ・講師:茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 主査 小林 宏次氏 ・テーマ:「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動」	・立ち上げたばかりなので, 今後の進め方が課題となる。	・学校と地域の連携・情報交換・広報	・コミュニティ・スクールについては, 継続的に実施。
		2	令和5年8月23日 ~29日	・移動博物館の開催	茨城県自然博物館の教育普及活動の一環である「移動博物館」を一週間津田コミセンを貸切って開催した。 二中学区地域の輪をつくる会・同青少年部会・市民会議の協力と, 博物館が所有する標本の一部展示のほかに, 地域内学校の子供達や福祉支援施設及び地域住民から展示協力を得て, 2,166名の来場者を迎え入れることができた。 三世代交流やコミュニティ・スクールの一翼を担えた。			
		3	令和6年1月31日	・コミュニティ・スクール(学校と地域の連携)	各小・中学校の運営協議会代表・教委青少年課・教委指導課により開催し, 各運営協議会の活動報告・今後の進め方・勉強会の開催を決定した。			
		4	令和6年3月7日	・コミュニティ・スクール(学校と地域の連携)	・コミュニティ・スクール(学校と地域の連携)についての勉強会 ・市民会議委員, 各学校, コミュニティ組織役員対象 35名参加 ・講師:とちぎ市民協働研究会 廣瀬 隆人氏 ※今までの講演と違い学校・地域のありかたについて実例を踏まえての説明に対して参加者に大変好評だった。			
前渡を明るく住みよくする会【H24.4.21設置】	自治会長 各部会長 事務局長 (17人)	1	令和5年5月26日	・令和5年度市民会議の取組について	・市民会議委員の顔合わせ ・今年度の取り組むべき課題の検討	・これまで, 自治会加入率の向上を目標に活動してきたが, 依然として加入率の低下が止まらない。  ・計画していた「地域共生社会について考える」の講演は中止せざる得ない事態となり, 延期開催も出来ないことから, 講師の方が用意していた講演資料を入手し, 関係者へ配布し周知することにした。		・年度当初に検討テーマを設定し, それを遂行する。
		2	令和6年1月19日	・常任理事研修	・各自治会の抱えている課題等について出し合い, 意見交換を行った。			
		3	令和6年2月16日	・「地域共生社会について考える」の演題で講演会を開催	この先の2040年問題として, 1人の高齢者を1.5人で支える時代となり「社会保障費1.6倍」「団塊ジュニア世代が高齢者」「医師・介護士が不足」「インフラ老朽化」などの課題が上げられている。 こうした課題の対策として, 制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて, 地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し, 人と人, 資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで, 住民一人ひとりの暮らしと生きがい, 地域をともに創っていく社会, 「地域共生社会」が提案されています。 今年度はフロイデ総合在宅サポートセンターの大越介護福祉士と北部地域包括支援センターの大津作業療法士から「地域共生社会について考える」と題しての講演を計画していたが, 講演2日前に講師のお二人がコロナに感染したとの連絡が入り, 講演を急遽中止にした。 自治会長, 地区委員, 専門部会長等の役員(約30名)へ市民会議の開催案内をしていたことから, 予定通り参集していただき, 近況報告等の意見交換を行った。			

令和5年度 コミュニティ市民会議の取組状況

コミュニティ組織名	市民会議委員(人数)	No.	開催状況	課題・テーマ	内容・結果	今年度の市民会議の総括	会議運営上の課題	次年度以降の取組予定
佐野の和を推進する会 【H25.4.15設置】	12地区自治会長 コミ役員 事務局 (16人)	1	令和5年6月8日	・SDGs達成のための市の取り組み	市廃棄物対策課職員による説明 ・SDGs達成のための市の取り組み ・手軽にリユースの市の取り組み ・市のゴミ処理 ・家庭ごみの正しい出し方(パンフレット) ・質疑応答	・今年度は、ごみの分別収集やSDGs達成のための取組等を中心に考えを深めてきたが、地球温暖化を防ぐためには、今の取り組みを継続していくことが実感できた。さらに地域活動の中で、環境美化や地域清掃活動に積極的に取り組めるようにしてきた。  ・より現実的なテーマを募集し、地域全体で取り組めるように、市民会議の在り方を考えていきたい。	・コミ組織の運営に係わっている方たちが高齢化しており、若い方達に参加していただき、まちづくり市民会議の活性化を図ることが大切であると考えている。	・新しい課題についてアンケート調査等を実施し、市民会議のあるべき姿を考えて来年度は取組みたい。
		2	令和5年12月6日	・エコフロンティアかさま見学	・廃棄物最終処分場のエコフロンティアかさまを訪問し、廃棄物対策の取り組みを聞く活動を通して、広く環境保全について学ぶことができた。また、改めてゴミの分別収集や、環境問題について考えを深める活動ができた。			
		3	令和6年2月13日(火)～14日(水)	・研修視察(東京都庁見学)	・東京都庁を訪問し、日本の首都の行政機関の取組等を学び、市民会議の新たな姿や活性化を図ると共に、自治会長やコミュニティセンター役員の相互の交流研修を行う予定である。			
大島コミセン地区 地域づくりの会 【H25.4.20設置】	地域づくりの会役員 自治会長 委員長(若しくは副委員長)及び実践部 会長 保健推進員 高齢者クラブ 民生委員 大島中学校区PTA 青少年代表者 婦人学級連絡会 (20人)  ※今回の「テーマ」・「取り組み」は、社会福祉協議会の支えあい事業(地域福祉推進体制整備事業)との関連が深い ため、地域福祉課と社会福祉協議会の職員の方も加わっている	1	令和5年6月26日	・地域福祉推進事業体制(協議体)について ・令和5・6年度のテーマ「ゴミ出し支援～助け合いのしくみづくり～」	・委嘱状交付、顔合わせ(自己紹介)、正副委員長選出 ・大島まちづくり市民会議における協議内容の報告及び提案について ・令和3・4年度市民会議(テーマ:ゴミ出し支援)について<報告> ・令和5・6年度のテーマ(令和3・4年度のテーマ継続)テーマ:ゴミ出し支援～助け合いのしくみづくり～ ・高齢者対策問題の関連で、社会福祉協議会の支えあい事業の取り組みについて社協職員より説明を受ける。	・今回のテーマは、令和3年度から令和6年度まで4年間取り組むことになる。今年度はその3年目であり、実践的な活動に繋げるため、当事者の視点で具体的なゴミ出し支援の進め方について協議し、検討を重ねてきている。11月には、先行して高齢者の生活支援を実践している笠間市・第一東宝ランドお助け隊との情報交換も行った。代表の方からは、活動実績よりも、このような組織があることが安心感につながる、という話があった。今後、本会議を進めるにあたり、委員相互の視座として共有していきたい。また、あまり大上段に構えず、やれるところから小さな取り組みをまず始めるというスタンスで臨みたい。  ・第5回の市民会議では、すでにゴミ出し支援を実践している市内二中地区・津田第三自治会(津田第三寿会)の代表の方をお招きし、取り組みの様子についてお話を伺っており、ぜひ参考にしていきたい。	・今回のテーマは、本来、実践化の話し合いに際しては、新たな組織を編成し進めていくことが望ましいと思われる。ただ、会議ばかり多くなり委員の負担も大きくなることから、本会議の中で実践化への話し合いも行っている。しかも、委員の構成の関係で年度が変わると一部の委員は交代する。若干リセットされた感もあり、機能するまでに時間を要する。その時間的なロスができる限り減らすような話し合いの持ち方を工夫していく必要がある。	・市民会議の協議内容についてはまめに理事会に報告し、協力が得られれば年度途中からでも組、班、自治会を問わずモデル地区として試行的にゴミ出し支援を始めたいよう努める。
		2	令和5年8月28日	・ゴミ出し支援～助け合いのしくみづくり～ 提案型→当事者意識	・テーマへの迫り方を変えて、グループでの協議・検討<グループでの協議・討議> 現実的にやれそうな案を協議する。やるとなると何が課題となるか。 ・グループごとの発表、情報の共有化(会議録を配付、次回までの課題とする)			
		3	令和5年10月27日	・ゴミ出し支援～助け合いのしくみづくり～	・前回の協議内容をもとに、当事者(推進役)の視点で具体的なゴミ出し支援の進め方についてグループで協議・検討する。(※ 地域の実態に応じて、いくつかのケースを取り上げ、進め方について考えてみる。) ①「組」をゴミ出し支援のベースとしたとき、どのような進め方が考えられるか ②班や自治会といったより大きな組織で進める場合 ③高齢者クラブのような既存の組織を活かす場合 等 ・協議内容を共有する。			
		4	令和5年11月22日	・先進地視察研修(会場:笠間市岩間公民館)	・高齢者の生活支援に取り組んでいる笠間市「第一東宝ランドお助け隊(団地の有志の会)」との情報交換を行い、今後の進め方の一助とする。 <主な説明内容> プロジェクトの立ち上げについて お助け隊の事業内容・役割分担、枠組みについて 笠間市の支援モデル事業について			
		5	令和6年1月29日	・ゴミ出し支援～助け合いのしくみづくり～について総括	<グループ討議> ・ゴミ出し支援～助け合いのしくみづくり～の取りまとめと実践化に向けての話し合い。 ※本市で、すでにゴミ出し支援を実践されている津田第三自治会の担当者の方をゲストとしてお招きし、取り組みの様子を伺うとともに、話し合いに参加していただく。			

令和5年度 コミュニティ市民会議の取組状況

コミュニティ組織名	市民会議委員(人数)	No.	開催状況	課題・テーマ	内容・結果	今年度の市民会議の総括	会議運営上の課題	次年度以降の取組予定	
田彦中学区地域づくりの会【H24.4.14設置】	会長 副会長 自治会長 副自治会長 (13名)	1	令和5年5月27日	・地域で守る安全な街づくりについて	・子どもを守る110番の家の役割 ・防犯連絡所の役割等の研修 (小学校と連携して開催, 92名参加)	・学校・地域協働活動の実践 ・幅広い世代を呼び込めた	・こうした企画運営者の人材不足		
		2	令和5年7月29日	・学校運営協議会と地域学校協働活動について	・学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進について ・スクールソーシャルワーカーによる地域・学校連携による生徒指導 (中学校と連携して開催, 69名参加)				
	会長 副会長 自治会長(6名) 子ども会会長(11名) (20名)	3	令和5年7月2日	・(1回) 子ども会・本会との情報交換	・本会の行事と協働活動について(運動会やコミまつり等への参加により地域活動への理解と価値共有) ・コミスクール講習会への参加	・事業目標の一つ「若年層世帯が参加しやすい事業の創出」が一定程度実践できた。 ・情報交換会の参加者がある程度の理解と価値の共有化がはかられた。	・子ども会役員が1年交代(共有化の継続が難しい)		・継続することを確認(若年世代との連携)
		4	令和5年9月24日	・(2回) 子ども会・本会との情報交換	・子ども会活動の価値の再認識 ・子ども会組織の見直し(原則:1自治会/1子供会または2子ども会)の提案				
		5	令和5年11月19日	・(3回) 子ども会・本会との情報交換	・子ども会組織見直し検討の結果⇒現状のまま。来年から規定変更により会員の動向を様子見				
		6	令和6年1月21日	・(4回) 子ども会・本会との情報交換	・次年度行事計画の調整 ・役員会への子ども会参加(組織見直し)				
湊中学区地域を住みよくなる会【H23.9.30設置】	コミ役員 スポーツ推進員 民生委員 PTA役員 高齢者クラブ役員 部会員 (15人)	1	令和5年8月1日	・令和4年度における市民会議の状況について ・新たなテーマについて(案)	・新たなテーマについて出席者からは、子供会の解散と存続の難しさに対する意見、三世代交流や自治会・高齢者クラブ・子供会の組織間の交流の機会に対する意見があり、次回以降これらの意見をどのように展開していくか検討していく。	・地域の少子高齢化に伴う課題の解決のために、多世代間の交流の機会を増やし一緒に行える活動の検討を始めた。まずは課題として出た中学校の部活動の無い曜日の放課後の生徒の見守りについて、どのように展開できるか検討していく。	・多世代間の交流のための活動を行う上での学校、PTA、地域活動団体、自治会等の連携。	・中学生見守りの具体的な活動への展開。	
		2	令和5年11月6日	・多世代間の交流や自治会・高齢者クラブ・子供会等の組織間の交流の機会が増える活動についての検討	・子育て世代がどのような事なら参加するのか、参加しやすい環境作りを考慮して活動と一緒にいき、試行することが必要である。 ・SNSでの情報発信も行い親子での参加を図る。 ・地域交流に参加しやすい環境づくりは、1~2年で出来る課題ではないが、少しずつ参加してくれる人が増えるよう継続する。				
		3	令和5年12月19日	・子育て世代も参加する地域交流活動の検討	・中学校の部活動の無い曜日の放課後の時間を持って余す生徒がいるため、生徒が放課後の時間を有効に使えるよう居場所を提供し見守ることが何かできないかを検討し、市民会議の活動につなげる。				

令和5年度 コミュニティ市民会議の取組状況

コミュニティ組織名	市民会議委員(人数)	No.	開催状況	課題・テーマ	内容・結果	今年度の市民会議の総括	会議運営上の課題	次年度以降の取組予定
美乃浜学区明るい地域づくりの会【H24.6.1設置】	コミ役員 コミ各部長 各自治会長 及び副会長 青少年相談員 女性学級連絡員 学校PTA役員 観光協会 防犯協会 (21人)	1	令和5年5月17日	・平磯海岸通りの花壇ボランティア活動について	・平磯海岸通り(県道6号線)に18基の花壇があるが、長い間手入れが行き届かず、草が伸び放題の状態なので、地域づくりの会員及び地域住民にボランティアを募り、整備していく。大宮土木事務所と相談しながら早急にスケジュールの作成と協力者を募り実施する。 ・12月に環境部会を中心に現状確認をした。	平磯海岸通りの環境整備に伴う改修工事について大宮土木事務所と具体的な話を進めた。		・コミュニティ組織の運営について検討していく。 ・平磯海岸通りの花壇ボランティアをする有志を募り、除草や植栽の環境美化活動を推進していく。
		2	令和6年1月12日	・平磯海岸通りの花壇ボランティア活動について	・自治会長、環境部会長、事務局が同席し、大宮土木事務所による現状確認をし、今後の対応を検討をした。			
		3	令和6年1月12日	・コミセン移転計画について(コミセン移転要望書提出)臨時総会開催	・要望書について賛成多数で可決。1月24日に市民活動課に提出。			
		4	令和6年1月31日～2月5日	・スケッチ・写真展	・令和6年1月31日から2月5日の6日間、市民交流センターにおいて昨年に引き続き「平磯・磯崎海岸スケッチ及び写真展」を実施した。全作品56点を展示。来場者212名。平磯の知名度アップに貢献できた。次年度も多くの作品を展示し、更なる魅力度アップにつなげたい。			
		5	令和6年2月8日	・「茨城の観光誘客及びリゾート構想」	磯崎県議を招いての研修会を実施 テーマ:「ひたちなか・大洗リゾート構想の計画と実現」 1, 講話 2, フリートーク 3, 質問要望等 ※地域の活性化や道路整備等について4件の要望を県議に提出			
阿中学区明るく住みよい地域をつくる会【H24.4.21設置】	コミ役員 自治会役員 地区ごとの代表者(各地区2人) 美乃浜学園PTA会長 (22人)	1	令和5年4月22日	・令和5年度市民会議の取組について	・市民会議委員の顔合わせ ・今年度取り組む課題の検討 ・意見交換 市政懇談会要望事項など	・1コミ組織の中の1自治会という地域の結びつきの強い特別な地区にある中で、コミ組織と自治会が地域の課題と一緒に取組むという点でも意義ある取組みであった。避難訓練に参加する要支援者の数は少なかったが、自治会、コミ組織としての支援体制をある程度確認することができた。継続して取り組める体制を今後も維持していくことが大切だと思われる。	・コミ組織、自治会としての現在の取組みを住民に広く周知していく必要がある。 ・今後のコミ組織の在り方について、住民の考えや意見を集約していく必要がある。	・今後のコミュニティ組織の運営についての検討 ・ふれあい交流館の利活用の推進について ・津波を想定した避難訓練(継続 自治会との連携)
		2	令和5年8月5日	・防災訓練の見直しについて	・避難訓練、特に津波対策について町民からの声を聞く(体験談、援助など) 地震・津波による被害の軽減を目指すために、自治会からの防災訓練実施計画案の確認 ・意見交換			
		3	令和5年8月18日	・避難訓練の実施について	・避難訓練実施説明 一時避難所、指定避難所、要支援者誘導の確認 ・自治会からの詳細の説明 ・意見交換			
		4	令和5年8月26日	・津波を想定した避難訓練の実施	(自治会と共催) ・訓練に参加する要支援者(対象地区に住む一人暮らしの高齢者と希望者)の確認2名の参加 ・支援体制 自治会 16名・コミ組織 40名 合計 56名 ・避難者の指定避難所(阿字ヶ浦ふれあい交流館)への搬送 ・炊き出し訓練			
		5	令和6年3月12日	・次年度の課題・テーマについて	・次年度取り組む課題・テーマの決定 ・意見交換			